

本家野球拳プロフィール

本家野球拳は大正 13 年の宗家前田五建から現在の 4 代目家元まで、野球拳の普及に努めてまいりました。後世に素晴らしい野球拳を伝える為に日夜がんばっております。今後は全国的に正統野球拳としてのイメージ作りにも力を注いでいきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

愛媛県、松山まつりの野球拳は、ひょんなことから誕生した。大正 13 年 10 月、高松市の屋島グラウンドが完成、記念に近県実業団、野球大会が催された。

当時、西日本に名前がとどろいていた強豪伊予鉄、現在の伊予鉄道チームも参加、高商クラブ（高松商 OB チーム）と対戦、0 対 8 で惨敗を喫した。

その夜、高松市内の川六旅館で懇親会が開かれた。宴席は隠し芸の腕比べとなり、芸達者ぞろいの高松勢は社交ダンスを披露するなど、またしても優勢。芸のない伊予鉄電選手らは、ますます落ち込んでしまった。その時、マネージャーの前田五建（当時は五剣、後に県川柳文化連盟初代会長）が、仲間を別室へ集めて、自作の即興歌と振り付けを教えた。

野球するなら こういう具合にやらさんせ

♪ 投げたら こう打って

打ったなら こう受けて

ランナになったら えっさっさ

アウトに セーフに よよいのよい

へぼのけ へぼのけ おかわりこい ♪

前田五建の歌と三味線に合わせ、選手全員が向かい合って野球のしぐさをしながら踊ったところ大受け。座は大いに盛り上がり、夜の部は伊予鉄電の大勝利となった。

松山へ帰り、三番町の料亭、明治楼で開いた残念会で、再び披露した。以後、伊予鉄道チームが宴会を開くごとに松川柳会に広まった。

曲は、元禄花見踊りをアレンジしたもので、当初は最後に（キツネ拳）で勝負していたが、昭和 22 年の伊予鉄忘年会からジャンケンになった。29 年にレコード化され大ヒット。この時、松山、高松、岡山県倉敷の間で本家争いが起きた。

伊予鉄電が遠征したとき、土地の芸者に教えたのが原因らしい。著作権問題は松山市の料亭での写真が決め手となり、前田五建作詞で登録された。